

成果報告書 MOD SFC 展

環境情報学部1年 脇田玲研究会 伏木和香

- ・主催 脇田研究会 Visualization デジタルツイン グループ
- ・活動名称 MOD SFC (展示企画)
- ・開催期間 2024 1/15 ~ 2024 1/19
- ・開催場所 T記念館 T13ホール

展示概要

脇田玲研究会 Visualization デジタルツイン グループの成果発表、ならびにSFC 内でのヴァーチャルキャンパス(=デジタルツインキャンパス)の可能性とキャンパスを創り上げていく人々の創造力をひらくことを目的として開催された。本展示では「リアルとヴァーチャルの往来」「MOD開発と創造力によるキャンパスの変容」をコンセプトとし、慶應義塾大学SFC研究所デジタルツインキャンパスコンソーシアムの活動の一つに位置付けられるメタバース空間(仮想空間)について取り扱った。

展示作品

・What if

アンビエントモニターによる映像作品。リアルとヴァーチャルが交錯する展示空間への導入となる作品。

・界面活性

鑑賞者参加型の作品。リアルとヴァーチャルの往来を経た上で、SFC の過去の入試問題をオマージュした問題提起により、新たなSFCのあり方がひらかれる。

・慶應SFCコンピューショナル・プレイグラウンド

大型のプロジェクション作品。プレイヤーとしてデジタルツインキャンパスを実際にさぐると同時に3DCGオブジェクトの配置による創造行為も行える。

開催成果・開催実績資料(画像 / 展示ビジュアル)

1週間の展示期間で、学部生・院生・教職員の方など学部学年を問わず多くの方にご来場いただいた。本展示はヴァーチャルSFCへの導入となる作品を鑑賞していただいた後、プレイスペースにて実際にキャラクターを操作してヴァーチャルSFC 内の体感するという空間設計となっていた。





来場者フィードバックの一部

- ・創造行為のベクトルが面白い
- ・SFC の授業のツールになると面白いのでは？(メタバース内で授業を行うという意)
- ・総合政策学、環境情報学などで扱えると良い
- ・展示作品の配置のCGっぽさが印象に残った
- ・SFC のメタバースがあることを初めて知った

課題と今後の展望

展示におけるフィードバックの一つに、「コンセプトだったり展示物は面白いけどエクセキューション(ものの品質、スタッフの対応/アンケート実施、期間)が追いついていない、要するに考えが先行して行動出来ていなかった印象を感じた」というものがあった。今回の展示ではコンセプトならびに展示アイデアの発案に時間を要してしまい、展示物の制作・展示空間の十分なクオリティの向上のために割ける時間が少なくなってしまった。展示を行う上でのプロセス設計の脆弱さが1つの原因だと考える。スケジュールや書類手続き、金銭面などより細分化してプランを組み、かつ展示に関わるメンバーや関わってくださる方々とより綿密にコミュニケーションをとっていくことが必要であると実感した。また展示に関連する制作を行う中で、映像・CG・グラフィックデザインなどの基礎技術の向上もグループ全体の課題点であると認識した。

2023年度秋学期の脇田研最終成果発表にて研究会内で本展示の講評が行われた。デジタルツインプロジェクトでは今後もメタバース上での創造に関する研究を継続し、第2回の展示開催を目指す方針をとることとなった。

謝辞

最後になりますが本展示を開催するにあたり多くのご協力をいただきました、脇田玲先生をはじめとした大学関係者の皆様、技術提供いただいた O.Ltd / O株式会社 様、機材協力いただいたクナイ様、資材提供いただいたイトーヨーカドー様、同研究会の皆様、すべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。